



いっ
巖のしらかし

《白檀中学校だより 第17号》

令和7年3月5日発行

文責:校長 西村 拓司



ホームページ

3年生のみなさんへ

(3月4日 全校朝礼より)

中学校の3年間で 42.195kmの フルマラソンにたとえると
3月4日の今日 みなさんは41.8kmのところに さしかかりました
ゴールまで あと400mほどです

沿道で手を振って 励ましてくれた人たちの姿を後に
いよいよ ゴールのある スタジアムに入ってくる瞬間です
スタジアムに入った瞬間に みなさんの目には
みなさんのゴールを待ちわびている 大観衆の姿が見えることと思います
そして スタジアムの歓声の音が みなさんの耳に届くと思います

42.195kmの道のりの途中で 心くじけそうになったことも あったかもしれません
追い越されて しんどく感じ 涙を流したこともあったかもしれません
でも そんな時 仲間や先生 親や家族の励ましが
今の自分自身を支えてくれたことと思います
このマラソンは 他人との競争ではなく 自己ベストへの挑戦なんだと

スタジアムの観客席では
きみのゴールを待ちわびている 大切な人たちがそこにはいます
きみたちを 今まで温かく見守り
育ててくれた 大切な人がそこにはいます

その人たちに 笑顔で
「頑張ったよ ありがとう」と 応えるためにも
ゴールテープをきる瞬間まで
今日の一步 明日の一步を
走り続けてください
幸せと栄光を みなさんの手に



奈良県公立高校一般選抜試験を受けるみなさん、自己ベストへの最後の挑戦です。精一杯、ベストを尽くして、自分を信じてがんばってください。見事、合格通知を受け取ることを心から願っています。みんな応援しています。

在校生のみなさん、3月13日の卒業式の予行練習には、在校生も出席します。14日の卒業式に向けて、心のこもった思い出に残る最高の卒業式を、みんなの手でつくりましょう。3年生に感謝のエールを贈り、3年生の旅立ちと新しい門出をお祝いしましょう。

認知症キッズサポーター養成講座 ～1年生福祉体験学習～ (文:1年学年主任 田中 宏樹)

1年生は、福祉についての学習に取り組んでおり、2学期の障がい者問題に続き、3学期は高齢者福祉の学習を進めています。学習の一環として、2月21日(金)、檀原市役所長寿介護課、特別養護老人ホーム桃寿園の方を講師として迎え、認知症キッズサポーター養成講座を行いました。

初めに認知症についての講義を受けました。認知症の症状は人によってさまざまであることや認知症の人の接し方など初めて聞く内容に、みんな真剣な表情で聞き入っていました。講師の方から『祖父母と一緒に住んでいる人、もしくは近くに住んでいる人』という質問がありましたが、ほとんどの生徒が手を挙げていたことが印象的でした。

次に、実際の場面を想定して、どのように対応すれば良いのかを考えました。桃寿園の方が2つの例を寸劇で演じてくださり、グループで話し合っ答えを出すというグループワークです。生徒たちは、活発に意見を出し合い、最善の方法を導き出していました。各グループの答えは、寸劇で発表するという斬新な形で行われましたが、勇気をもって積極的に前に出て発表する姿が見られ、とても盛り上がるとともに、考えを深めることができました。講師の方々も、『若い人たちの発想力はとても素晴らしかったし、逆に勉強になりました』とおっしゃっていました。寸劇では、驚くほどたくさんの人が前に出て演じてくれました。これは文化祭の舞台で寸劇を演じた成果が出ているように思い、この1年間を通しての取り組みが力になっていることを実感することができました。

最後に今回の学びを実生活に生かして、家族や地域の一員として、自分にできることを考えて実践していくことをみんなで確認しました。



檀原市役所長寿介護課の講話



桃寿園の方との脳トレーニング



グループワーキング

《 Topic ! 》 ひな祭りの由来について

《ひな祭りの由来》

中国では3月上旬頃に、人形に息を吹きかけて、自分の穢れけがを移して川に流すことで厄払いするという習慣が存在していました。これが日本に伝わって、3月上旬頃に、穢れ払いの儀式が行われるようになりました。そして奈良時代頃から穢れ払いの儀式として、紙でできた人形に、「我が子が無事に成人するまで健康でいられますように」という祈りを込めて厄払いが行われるようになりました。

やがて平安時代頃になると、人形に厄を移して川に流す『流し雛(ながしびな)』も行われるようになりました。それが江戸時代になって、上巳じょうしの節句が3月3日に制定されると、これまで行われていた流し雛に変わり、雛人形を飾る風習が根づいていきました。

元々お雛様は、人の身代りに厄災を引き受ける人形という役割があり、そこから、**女兒の健康や成長、幸せを願う日**となっていったそうです。

